

令和4年度（2022年度）人権教育指導者研修会 事業報告書

I 事業の概要

1 事業名

多様なあり方を認め生きていくために ～共生社会の実現に向けて～

2 開催日時

令和4年12月9日（金）13：40～17：00

3 開催場所

道民活動センタービル かでのる2・7 710会議室

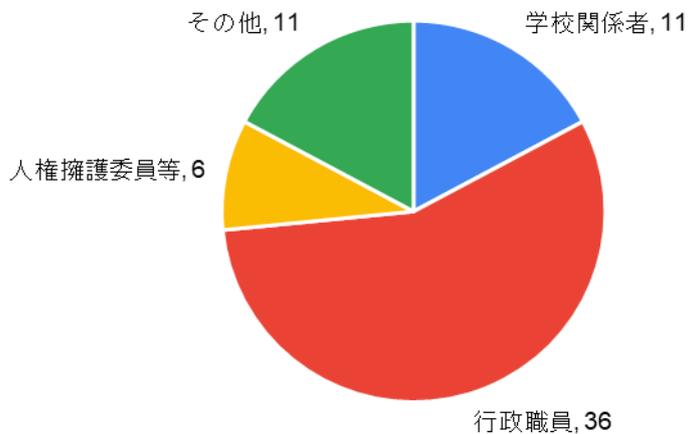
パネルディスカッションの内容はオンライン会議システム Zoom 上で配信

4 参加人数

64名（当日会場参加17名、オンライン視聴47名）

5 参加者の内訳

参加者内訳 計64名



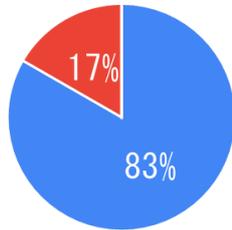
6 プログラム

	13:20	13:40	13:45	14:00	15:30	15:40	16:20	16:40	16:50	17:00
12/9 (金)	受付	開会式	情報 提供 (15分)	パネル ディスカッション (90分)	休憩	意見交流 (40分)	全体 交流 (20分)	まとめ (10分)	閉会式	

プログラム	講師等	内容
情報提供	<p>【説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道環境生活部くらし安全局 道民生活課 主幹（人権啓発） 古川 悟一 氏 	<ul style="list-style-type: none"> 北海道人権施策推進基本方針について、「にじいろガイドブック」について、道の施策について参加者に向けて情報提供
<p>パネルディスカッション 「共生社会の実現に向けて～性的マイノリティについて考える～」</p>	<p>【パネリスト・講師】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会教育士、元道立学校教諭、 トランスジェンダー当事者 大津山 茂 氏 臨床心理士、心理学博士 西野 明樹 氏 明治大学教授 鈴木 賢 氏 <p>【コーディネーター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道立生涯学習推進センター 主幹 長岡 広之 	<ul style="list-style-type: none"> 性的マイノリティの理解や共生社会の実現に向けて、当事者からパネルディスカッション形式で進行 前半3名の講師の方から、性の多様性などについて、理解促進や法制度などについて、それぞれお話しいただいた。 後半は、ご参加のみなさんの質問などにもお答えしながら、フリートークを行い、最後に一言ずつまとめのお話しいただいた。
意見交流・全体交流	<p>【進行】</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道立生涯学習推進センター 社会教育主事 浅川 美緒 	<ul style="list-style-type: none"> 「共生社会の実現に向けて私たち自身ができることは何か、これから何を取り組むか」というテーマについて、会場参加者の意見交流を行った。
まとめ	<p>【講師】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会教育士、元道立学校教諭、 トランスジェンダー当事者 大津山 茂 氏 臨床心理士、心理学博士 西野 明樹 氏 明治大学教授 鈴木 賢 氏 	<ul style="list-style-type: none"> 講師の先生方からこの研修会のまとめとして、一言ずつ全体の講評をお話しいただいた。

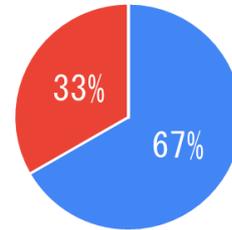
7 参加者アンケート結果

今回の研修会に参加する以前にLGBTQについての
のくらい関心や理解がありましたか



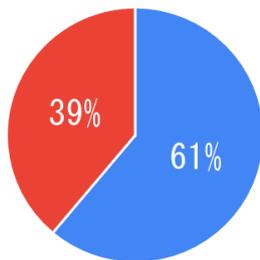
■ あった ■ 少しあった ■ あまりなかった ■ なかった

LGBTQや人権問題についての関心や理解は深まり
ましたか



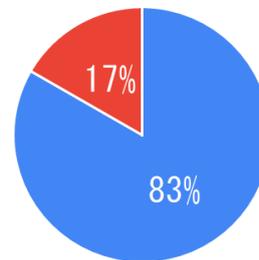
■ 深まった ■ 少し深まった ■ あまり深まらなかった ■ 深まらなかった

今回の研修会の内容は満足のいくものでしたか



■ 満足した ■ 少し満足した ■ あまり満足しなかった ■ 満足しなかった

今後もこのような研修会を行うべきか



■ 積極的に行うべき ■ 時々行うべき ■ 行わないほうがよい

今回の研修会で一番大切だなと感じたことは何ですか

- 互いを尊重すること
- 人権は与えられるものではなく元々あるものであるという原則的な考え
- さまざまな人の理解者になる
- 多様であること、それを理解して、ひとりの友だち、先生、理解者、味方になること。
- 「当事者の味方になる」という鈴木先生の言葉
- 社会通念を変えることが、難しいことは良くわかっています。普通という言葉に、あぐらをかいて正義を装っているような政治家を、見るに付け、情けない思いがします。国が差別を助長しているというという鈴木さんのご意見、賛成です。
- 学校で差別禁止法が採択されなかったことも残念です。生きづらさを感じている人がいるということをしつかりと認識したいと思いました。
- どのようなことも、まずは受け止めること。そして、相手の気持ちを考え、理解すること。
- 管理職研修
- 理解する心、根気強く温かく接する事ができる人でありたい。
- このような研修に参加し、正しい知見を広めること。
- LGBTQ についての知名度は上がったけど当事者は個々ということ。断片的な知識で対応したり安易な問題解決策にならないよう気をつけなくてはならないこと。
- それぞれの思いの深さを知ること。
- 「差別は差別する側の問題で、差別をやめれば差別がなくなる」という言葉です。LGBとTを特別視するのではなく、個々で自分が何者なのかを考える社会づくりを目指す意識が必要だと思いました。
- 当事者からカミングアウトを受けた際、味方になることや「あなたは間違っていない」というメッセージを伝えていきたいと思いました。
- 自分自身が変わることが大切→キレイな心を持って透明な自分になる
- 当事者のお話を聞いて、感想を参加者と共有すること

今回の研修会についてのご意見をご自由にお書きください

- 二極にして考えるのではなくグラデーションであることが普遍的なことであることを再認識させられた。多様な人たちとこれからも接する機会が多くあると思うので普段通り自分自身も特に相手を意識せず自分らしく接していきたい。
- もう少しお話しが聞きたかったです。
- 当事者の方から、直接話が聞けて、気づきや知識、必要なことがわかりとてもよかったです。ありがとうございました。
- Zoom 参加ですが、可能であればブレイクアウトルームを使って意見交流・全体交流にも参加したかったです。また、zoom 参加の方々も顔出し推奨がよいと思いました。講師の方々に申し訳なく感じてしまいます。
- 自分の周りにも、声に出せずに苦しんでいる人がいると思うと、心配になる。自分の周りにも、マイノリティに対しての理解が進んでいない人がいるので、まずはそこから伝えて、理解ができる人の輪を広げていきたい。
- 2 回に増やすという意気込みがとてもすばらしいですね。
- パネルディスカッションの 3 名の先生のお話が大変勉強になりました。ありがとうございました。グループ交流もいろいろな立場や考えを聞けて良かったです。
- 当事者のお話を聞くことが出来たことが貴重で収穫。ネットや SNS は不確かな情報も多いので、にじいろガイドブックに掲載されていた相談窓口も情報提供として活用していきたい。パネリストの方々のお話は知っている、理解している「つもり」だったが、なるほどと思ったり、ハッとすること話が多く、とても参考になった。今回のようなグループ意見交換は不要。できればそれぞれ似たような立場のグループに当事者や関係機関の方に入っただき、抱えている困り感や聞きたいことが聞けるようなグループ意見交換の方が良かったのでは？と思いました。
- 視点の見直しが必要かと思いました。
- 対面の情報量はやはり素晴らしく、今後もこのような研修に積極的に参加したいと思いました。
- 実際に当事者のお話を聞くことができ、とても勉強になりました。充実した時間になりました。ありがとうございました。
- 自分の知っていることはほんの一部ではずかしいくらいでした。もっと学びたいと思いました。